

ふるさとの植物を守ろう 植物園と生物多様性



目次

「日本植物園協会・植物多様性保全 2030 年目標」策定に向けて	2
植物多様性保全委員会 委員長 遊川 知久	
植物多様性保全拠点園ネットワーク事業	6
龍谷大学農学部 神戸 敏成	
生息域外保全の実施状況と課題、質の向上について	8
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 中村 剛	
植物多様性保全拠点園一覧	10
2023 年度 植物多様性保全拠点園事業 活動報告	12
2024 年度 植物多様性保全拠点園事業 活動計画	21

表紙写真

白馬五竜高山植物園 ガイドツアー	国立科学博物館筑波実験植物園 「つくばシダ展」日本の新種・新産種の 展示	北海道大学北方生物圏フィールド 科学センター植物園 礼文島での希少植物の保全研究
六甲高山植物園 開園90周年特別企画 牧野富太 郎特別展示	武田薬品工業株式会社京都薬用 植物園 京大上賀茂試験地との連携協定締結	一般財団法人沖縄美ら島財団 美ら島自然学校の植物調査体験会
北里大学薬学部附属薬用植物 園 ムラサキ育苗	旭川市北邦野草園 研究機関との共同調査	安城産業文化公園デンパーク バックヤードのギボウシ
新潟県立植物園 オキナグサの保全活動	大阪公立大学附属植物園 オグラコウホネ	大阪府立花の文化園 植物観察会

「日本植物園協会・植物多様性保全 2030 年目標」策定に向けて

植物多様性保全委員会

委員長 遊川 知久

1. 「2030 年目標」案のリビューにご協力ください

ただいま「日本植物園協会・植物多様性保全 2030 年目標（以下、2030 年目標）」策定に向けて、植物多様性保全委員会が取りまとめております。これからの植物園の生物多様性保全に関わる活動のガイドラインとなるものです。項目 2 に示す草案について会員の皆様からご意見を頂戴したく、6 月 30 日までに遊川までお知らせいただければありがたく存じます。

この機会に「2030 年目標」策定の背景について紹介しておきましょう。当協会ではこれまで「植物多様性保全 2010 年目標」と「植物多様性保全 2020 年目標」を定め、「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を中心に取り組みを進めてきました。昨年度の本報告書の記事「ネイチャーポジティブをめざした植物園の取り組み」と『日本の植物園』（八坂書房 2015 年）であらましを紹介しています。植物園の「顔」が見える生物多様性保全の取り組みがどんどん進んだのは、目標を設定したことによって国内外で求められているゴールを共有できたことが大きいと考えています。また、ハードルの高い項目が多かったにもかかわらず、目標を概ね達成することができたのは、会員園の皆様、そして環境省をはじめ協力いただいた団体や個人、行政機関、企業などのお力添えのおかげと改めて感謝申し上げます。

「2020 年目標」では、COP10 の「愛知目標」を受けて作成された環境省の「生物多様性国家戦略 2012」と BGC1 の「世界植物保全戦略 2011-2020 年」の達成をめざすゴールを設定しました。「世界植物保全戦略 2011-2020 年」は BGC1 が世界の植物園に向けて、植物園が具体的に貢献すべきポイントを抽出したすぐれた文書でした。10 年余りが経ち、COP15 で定められた世界目標「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」に対応した「生物多様性国家戦略 2023-2030」が昨年公表されました。一方、BGC1 の「ポスト 2020 世界植物保全戦略」は今年 10 月の COP16 で決定となると連絡を受けています。したがって今回は、「生物多様性国家戦略 2023-2030」のみを抛り所として「2030 年目標」の検討を進めます。

次項の「2030 年目標」案では、【生物多様性国家戦略の行動目標 ** に対応】というところで「生物多様性国家戦略 2023-2030」との対応を示しています。また生物多様性保全に関連して実行すべきことは多岐にわたりますので、「2030 年目標」では植物園が中核となって実行すべきことを明確にする観点で記述しておりますので、ご理解いただければ幸いです。

2. 「2030 年目標」案

ミッション

2030 年目標案 わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と有用植物資源の系統保存の中核として貢献する。

（対応する 2020 年目標） わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と有用植物資源の系統保存の中核として貢献する。

（コメント・検討事項）

- ・社会から植物園への要請の根幹となる部分であるため、変更していない

主な目標

2030年目標案 2030年までに日本産絶滅危惧植物600種類の自生地情報を持つ種子・胞子を保存する。

【テーマ：野生植物種の生息域外保全の推進】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標1-5, 1-6に対応】

(対応する2020年目標) 2020年までに日本産絶滅危惧植物種の15%(253種類)について自生地情報を持つ種子・胞子を保存する。

(コメント・検討事項)

- ・2030年目標として先行して確定済み
- ・「生物多様性国家戦略2023-2030」に記載されている

2030年目標案 2030年までに日本産絶滅危惧植物1,000種類(対象種の約56%)について自生地情報を持つ個体を生息域外保全する。

【テーマ：野生植物種の生息域外保全の推進】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標1-5, 1-6に対応】

(対応する2020年目標) 2020年までに日本産絶滅危惧植物種の65%(1,099種類)について自生地情報を持つ個体を生息域外保全する。

(コメント・検討事項)

- ・種子保存の目標値に合わせて、比率から種類数に目標値を変更した
- ・目標値の妥当性を検討する

2030年目標案 植物多様性保全拠点園ネットワークとナショナルコレクション認定制度を核とし、植物園と外部セクターが連携した植物遺伝資源保全を強化する。

【テーマ：多様な植物遺伝資源の保全手法の改善】

【主担当：ナショナルコレクション委員会 植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標1-5, 1-6, 5-2, 5-3に対応】

(対応する2020年目標) 植物園と外部セクターのネットワークを強化し、現在の枠組みを「植物多様性保全ネットワーク」に拡張する。

(対応する2020年目標) コレクション構築、保存、継承の方法を標準化し、さまざまな主体が連携したナショナルコレクションを確立する。

2030年目標案 さまざまな主体が連携することによって種内の遺伝的多様性を確保するメタコレクション*を推進し、野生復帰のファウンダーを確保する。

*複数の植物園が協働して同一種の遺伝的多様性を維持する保全手法

【テーマ：多様な植物遺伝資源の保全手法の改善】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 1-5, 1-6, 5-2, 5-3 に対応】

(対応する 2020 年目標) 2020 年までに生息域外保全と生息域内保全を連携させた野生復帰手法を提示する。

2030 年目標案 系統保存個体のデータベース化を推進し、2030 年までに日本産絶滅危惧維管束植物 500 種類の保有状況を全国の植物園で共有する。

【テーマ：多様な植物遺伝資源の保全手法の改善】

【主担当：植物情報システム委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 5-1 に対応】

2030 年目標案 全国の植物園で、生物多様性と生態系に関する市民の行動変容のきっかけとなる学習支援事業を実施する。

【テーマ：生物多様性に関するリテラシーの向上】

【主担当：教育普及委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標, 4-1 ~ 4-5 に対応】

(対応する 2020 年目標) すべての植物園で生物多様性保全の理解に資する学習支援事業を実施する。

そのほかの目標

2030 年目標案 2030 年までに日本産絶滅危惧植物 1,400 種類 (対象種の約 78%) を生息域外保全する。

【テーマ：野生植物種の生息域外保全の推進】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 1-5, 1-6 に対応】

(対応する 2020 年目標) 2020 年までに日本産絶滅危惧植物種の 75% (1,268 種類) を生息域外保全する。

(コメント・検討事項)

- ・種子保存の目標値に合わせて、比率から種類数に目標値を変更した
- ・目標値の妥当性を検討する

2030 年目標案 すべての植物園が侵略的外来生物に対して適切に対応する体制を確立する。

【テーマ：生態系の健全性回復の推進】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 1-3 に対応】

(対応する 2020 年目標) 新しく導入される園芸植物の生態系へのリスク評価をおこなう体制を確立する。

2030年目標案 植物園の有する都市緑地、自然共生サイト*の機能を活かした取り組みを推進する。

*民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域

【テーマ：生態系の健全性回復の推進】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 1-1, 1-2, 4-1, 4-2 に対応】

(コメント・検討事項)

・30by30 達成に向けての対応

2030年目標案 気候変動、生育立地消失、栽培困難種等を考慮した保全戦略を確立する。

【テーマ：多様な植物遺伝資源の保全手法の改善】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 1-4, 1-5, 1-6 に対応】

2030年目標案 地域の生物多様性、環境、伝統文化を包括して知り、守り、伝える取り組みを推進することにより、自然環境を保全、再生する。

【テーマ：生物多様性に関するリテラシーの向上】

【主担当：教育普及委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 4-5 に対応】

2030年目標案 植物遺伝資源（絶滅危惧種を含む）の収集、移動、保存、展示等に関連する法令について、植物園職員の理解を推進する。

【テーマ：生物多様性に関するリテラシーの向上】

【主担当：植物多様性保全委員会 ナショナルコレクション委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 3-3 に対応】

2030年目標案 農薬・肥料・資材の使用、温室効果ガス排出等に配慮した「持続可能な園芸」を推進する。

【テーマ：生物多様性に関するリテラシーの向上】

【主担当：植物多様性保全委員会】

【生物多様性国家戦略の行動目標 3-4 に対応】

(2024年4月30日 第2稿)

植物多様性保全拠点園ネットワーク事業

龍谷大学農学部

神戸 敏成

1. 植物多様性保全拠点園ネットワーク事業について

日本植物園協会（以下、植物園協会）では、植物園における「保全植物種の増加」および「保全植物の質の向上」を目的とし、2006年に植物多様性保全拠点園ネットワーク事業（以下、ネットワーク事業）を立ち上げました。ネットワーク事業を推進するため、気候・地域・専門分野等に配慮した拠点園を全国各地に設け、各拠点園の保全ターゲット種を明確にし、植物園、研究機関、市民団体、行政等との有機的なネットワークを構築することにより、効率的な保全の推進を目指して活動を行ってきました。その結果、多くの絶滅危惧植物の収集が進み、植物園協会では2023年度末までに1,304種類の絶滅危惧植物の生息域外保全を実現してきました。

2. 植物多様性保全拠点園ネットワークの今後について

ネットワーク事業は前述のとおり、これまでに一定の成果をあげてきましたが、その一方で、地域集団や遺伝的多様性を考慮した保全のためには、由来が明らかな個体の収集が重要になります。現在保全している植物の中には、自生地情報を備えていないため、研究や野生復帰に活用することができないものも含まれており、自生地情報を備えた植物の収集・保全がこれからのネットワーク事業の大きな課題となっています。この課題を解決していくためには、植物園協会内の基盤を整備し、植物園と外部機関との連携の強化がこれまで以上に重要になってきます。しかしながら、ネットワーク事業の立ち上げからすでに18年が経過し、植物園を取り巻く環境の変化や活動に携わる職員の入れ替わりなどがあり、ネットワーク事業への関心と理解が植物園協会内でも立ち上げ当初に比べると薄らいできたように感じています。植物園協会としてネットワーク事業を推進して植物の多様性保全をより強固なものにしていくためには、これまでのネットワーク事業を総括して、再構築することが必要であるという機運が高まってきていました。

これらのことを受けて、令和5年度に、今後のネットワーク事業のあり方について考えることを目的に拠点園ネットワーク分科会（以下、分科会）が植物多様性保全委員会の中に設置されました。分科会委員には、北海道、東日本、中部、西日本、九州の各地域の植物園の方々をお願いしました。

第1回の分科会は、大阪公立大学附属植物園の共同利用の助成を受けて、令和5年10月1日に大阪公立大学植物園において開催しました。そこでは、植物園を活用した日本産野生植物の保全のための活動方針や現在の植物多様性保全拠点園ネットワークの課題などについて議論しました。ネットワーク事業の基盤となる植物園協会内の植物多様性保全拠点園の再募集を実施する方向で議論され、その際には、多くの園が参加することができるように参加条件のハードルを下げる工夫が必要であることも提案されました。特に、現在は野生植物の収集・保存を行うことが拠点園の条件の一つとされていますが、野生植物に関する情報提供のような形でも拠点園としてもっと活動できるように改めるといった意見も出ています。また、コロナ渦で活動が制限されていた地域ネットワークですが、関東拠点園会議は広く東日本の植物園へ地域ネットワークを広げる方針であることが報告され、中部植物多様性拠点園連絡会議は令和5年度に富山県中央植物園において実施予定であることが報告されました。また、西日本拠点園交流会はシンポジウム終了後に会場を利用して、再活動へ向けた打ち合わせが行われるなど少しずつですが動き出しています。一方で、北海道および九州地域の拠点園の地域ネットワーク化については、地理的要因などからネットワーク化して活動することが困難であることも確認しました。

今後のネットワークのあり方ですが、関東拠点圏会議（現東日本地域植物多様性保全拠点ネットワーク会議）では、市民団体との協働による植物の多様性保全活動が積極的に実施され、先駆的な事例となっています。保全活動をより強固なものにしていくためには、市民団体等との協働が不可欠である反面、自生地情報は慎重に取り扱う必要があります。植物園協会では、協会内の植物多様性保全拠点園が核となり、各地域で関係機関や一般市民と連携することでネットワークの拡大を目指し、最終的には日本の絶滅危惧植物の保全を強力に推進する全国規模のネットワークを構築することを目指しています。令和6年度中に新たなネットワークを構築するための枠組みを決めて動き出したいと考えています。

3. シンポジウム「植物園における植物多様性保全」の開催

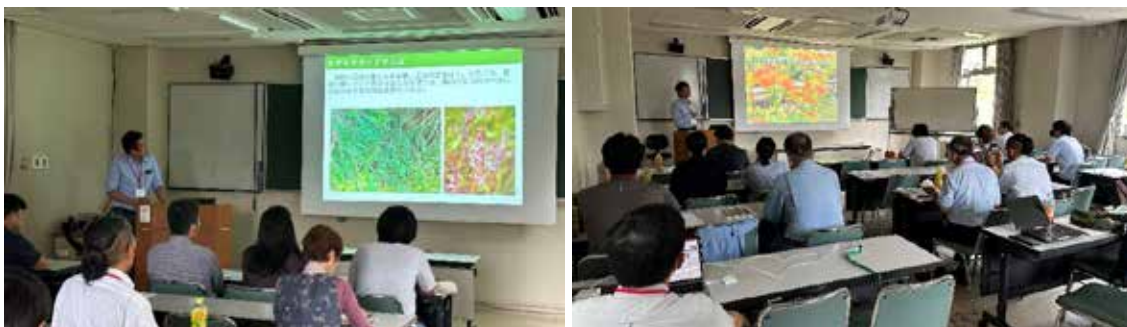
令和5年10月1日の拠点園ネットワーク分科会の開催に合わせて、植物園による絶滅危惧植物の保全について、一般市民への啓蒙を図るためのシンポジウム「植物園における植物多様性保全の試み」を開催しました。

植物多様性保全拠点園である北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園の中村剛さん、環境省新宿御苑の関勝雄さん、名古屋市東山植物園の石川和之さん、大阪公立大学附属植物園の厚井聡さん、京都府立植物園の平塚健一さん、熊本大学薬学部薬用植物園の渡邊将人さんの6名から、それぞれの園が取り組んでいる植物多様性保全に関する活動について紹介していただきました。

園ごとに設置目的が異なっていることなどから、植物多様性保全への取り組み方も様々でした。植物多様性保全の取り組みは各園もしくは職員の努力によって行われているケースが多く、植物多様性保全をさらに推進していくためには、保全活動を行っている団体や地域住民の理解や協力が不可欠であり、拠点園ネットワークなど活動をサポートできるような体制づくりが重要であることなどが紹介されました。シンポジウムの開催は、植物園協会が目指す「植物多様性保全」の状況などを一般の方に知っていただく貴重な機会となりました。植物多様性保全ネットワークがより充実するために、これからもこのような機会を設けていく必要があると感じています。



（植物多様性保全委員会 副委員長・拠点園ネットワーク分科会 座長）



生息域外保全の実施状況と課題、質の向上について

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

中村 剛

1. 生息域外保全の実施状況

日本植物園協会の加盟園が保有する絶滅危惧植物は2023年度末で1,304種類です。この値は、2023年に開始した「日本産絶滅危惧植物種の第5回保有状況調査」の結果をもって更新されることとなりますが、環境省レッドリスト2020掲載の絶滅危惧植物1,790種類（維管束植物の種・亜種・変種）の72.8%にあたります。これは、生物多様性条約第10回締約国会議（2010年）の「2020年までに各国の絶滅危惧植物種の75%を生息域外保全する」目標をほぼ達成したもので、国別で見ると韓国（2017年時点で、絶滅危惧植物571種類のうち77.2%）に次ぐ高い割合です。

植物園協会の絶滅危惧植物の収集・生息域外保全の1つの核となる活動が、環境省との「生物多様性保全の推進に関する基本協定」（2016年）に基づく連携事業です。植物多様性保全委員会にはその推進のために環境省連携事業分科会が設置され、国内希少野生植物種および潜在的に今後指定の可能性のある環境省レッドリスト掲載種を対象として、生息域外保全手法の検討（現地調査やヒアリング等による生育環境、繁殖生態、栽培条件等の情報収集）、生息域外保全の実施（種子・孢子・苗・枝等の採取、実施園や種子保存拠点園における栽培・保存）、種子保存に関する検討（種子等の保存の試行、保存種子の発芽試験、保存手法の構築）、生息域外保全情報管理システムに関する検討（個体管理データベースの改善・維持管理・利用促進）に取り組んでいます。2023年度は、加盟園6園により計24分類群について生息域外保全手法の検討が行われ、また、5園により計23分類群について種子あるいは株が採取されました（両課題とも国内希少野生植物種2種を含む）。これにより、自生地情報を備えた質の高い生息域外保全株・種子が植物園に導入されました。

2. 生息域外保全コレクションの課題

上記のように、生息域外保全の種数目標が概ね達成された一方で、加盟園が保有する絶滅危惧植物のコレクションには、様々な課題があることが明らかになっています。例えば、植物園協会加盟園29園が保有する絶滅危惧IA類（CR）106種類を対象に北大植物園が実施したアンケート調査では、40%以上のアクセスンに由来自生地の記録がないことがわかりました。また、種子保存拠点園などに保存されている種子にも、由来自生地が不明、種子粒数が少ない、保存年数が10年以上と古く発芽能力を失っている可能性がある、などの問題点が指摘されています。由来自生地の情報をもたない保全株・種子は遺伝的特性が不明であることから、生息域外保全の先にある自生地植え戻しや野生集団の補強において対象集団の本来の遺伝的特性を攪乱してしまう恐れがあり、その利用価値は低いと言わざるを得ません。また、保存している種子粒数が少ない種（しゅ）については、野生復帰に必要な量の種子が確保できていないだけでなく、種内の遺伝的な多様性が保全できていない可能性があります。

生物多様性条約第15回締約国会議（2021-2022年）で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」においては、種の適応可能性を維持するために、生息域外保全において種内の遺伝的多様性を確保すべきことが謳われています。また、日本の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的な計画である「生物多様性国家戦略2023-2030」も、生息域外保全する種子・孢子的自生地情報の重視と、遺伝的多様性保全の指針を示しています。そして、植物園協会の2030年目標もこれらを踏まえたものとなります。

3．生息域外保全コレクションの質の向上

生息域外保全コレクションの質の向上を目指して、2022年度以来、環境省連携事業では、現在加盟園で生息域外保全がなされていない種に加え、加盟園に由来自生地が不明の株しか保有されていない種や、遺伝的な保全単位が異なる集団から採取する必要がある種についても、採取対象種としています。また、由来自生地が明らかな株が個人など加盟園以外に保有されている場合は、そこからの採取・譲り受けも認めています。このような譲り受けは、採取許可に係る煩雑な申請手続きや自生地集団における調査・採取の負担を回避でき、それに加えて、自生地集団では既に失われた遺伝的多型を保全できる可能性があることから、積極的な実施が望まれます。

生息域外保全コレクションの質の向上には、植物関連学会との連携も有効と考えられます。研究利用された自生地採取の植物（株、種子・胞子、組織等）は、法令に従った許可申請により収集され、自生地情報や研究により付加された種・個体情報（正確な種・種内分類群同定、遺伝的・生理的特性、染色体倍数性などの情報）を備えていることから、生息域外保全株としての価値が極めて高いと言えます。しかし、このような植物サンプルは、研究が終了すると、保存標本とする必要数以外は廃棄されることが少なくありません。植物多様性保全拠点園など各地の加盟園がこのような貴重な植物の受け皿となるべく、関連学会に働きかけていきたいと思えます。

遺伝的多様性の保全と野生復帰に必要な量の種子の確保については、『絶滅危惧植物種子の収集・保存等に関するマニュアル』（環境省自然環境局、2009）に「種子採集の理論～遺伝的多様性の追及と既存集団の維持～」として、遺伝的偏りを防ぐためのサンプリング方法、遺伝的多様性を反映させるための必要個体数、個体数が少ない集団の必要個体数、種子採集による絶滅のリスク、などの解説があります。また、『絶滅危惧植物の種子収集・保存 ガイドブック』（環境省新宿御苑管理事務所、2010）には、理論を省いて、できるだけ多くの個体（上限50個体）から種子を少量ずつ採集する、10個体に満たないなど個体数が少ない場合は個体ごとに種子をわけて保存する、などの注意事項が記されています。これらのマニュアルとガイドブックはPDFがオンライン公開されているため、種子収集にあたり一読をお勧めします。

遺伝的多様性の面から生息域外保全コレクションの質を高めるためには、同じ種を保有する植物園間で由来自生地の情報を共有して、異なる種内系統を分担して保全することで、日本の植物園全体として高い遺伝的多様性を確保する保全手法（「メタコレクション」といいます）が有効と考えられます。メタコレクションの推進のためには、同じ種をもつ植物園間で由来自生地など非公開情報を同意の上で共有する仕組み作りが必要です。このためには、個体管理データベースの利用が鍵であると考えられることから、加盟園の皆様には本データベースへの登録に一層のご協力をお願いします。

（植物多様性保全委員会・環境省連会事業分科会）

植物多様性保全拠点園一覧

(令和6年3月)

地域野生植物保全拠点園	
北海道	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 旭川市北邦野草園
東北	東北大学植物園
中部	新潟県立植物園 富山県中央植物園 白馬五竜高山植物園 名古屋市東山植物園
関東	東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園 国立科学博物館筑波実験植物園 東京大学大学院理学系研究科附属植物園 環境省新宿御苑 東京都神代植物公園(植物多様性センター)
近畿	京都府立植物園 大阪公立大学附属植物園 大阪府立花の文化園 大阪市立長居植物園 六甲高山植物園 神戸市立森林植物園 姫路市立手柄山温室植物園
中国	広島市植物公園
四国	高知県立牧野植物園
九州	熊本大学薬学部薬用植物園 福岡市植物園 西海国立公園九十九島動植物園
沖縄	一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所

特定植物保全拠点園
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園【高山植物】
東北大学植物園【ヤナギ科】
新潟県立植物園【ツツジ属、水生植物】
富山県中央植物園【高山植物、サクラ属、キク属とその近縁属、水生植物】
安城産業文化公園デンパーク【サルビア属・ガマズミ属・ヒイラギナンテン属、ギボウシ属】
国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園【ムラサキ】
国立科学博物館筑波実験植物園【シダ植物、ラン科、ソテツ目、水生植物、高山植物、センニンソウ属、テンナンショウ属、カンアオイ属、チャルメルソウ属】

特定植物保全拠点園

環境省新宿御苑【ラン科植物、ハナシノブ】
東京大学大学院理学系研究科附属植物園 日光分園【温帯性テンナンショウ属】
北里大学薬学部附属薬用植物園【薬用植物】
草津市立水生植物公園みずの森【水生植物】
京都府立植物園【ラン科、カンアオイ属、ホトトギス属】
武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園【薬用植物】
大阪公立大学附属植物園【水生植物】
咲くやこの花館【マダガスカル産植物、中国高山産植物、フヨウ属、サクラソウ属】
大阪府立花の文化園【ラン科、カンアオイ属】
兵庫県立フラワーセンター【イワタバコ科、食虫植物】
広島市植物公園【ラン科】
高知県立牧野植物園【ラン科、ツツジ属、キク科、蛇紋岩植物、石灰岩植物】
一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所【ラン科、南西諸島の絶滅危惧植物全般】

種子保存拠点園

環境省新宿御苑 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所

地域野生植物保全拠点園

- ・自園で収集、保全、展示、教育活動等をおこなうとともに、当該地域の他の植物園や行政当局、市民団体などと連携を進める役割を担う

特定植物保全拠点園

- ・地域を限定せず、特定の分類群（たとえばラン科、シダ植物、高山植物といったカテゴリー）などの収集・保全をおこなう

種子保存拠点園

- ・種子の長期保存と種子を使った保全をおこなう

全国の植物多様性保全拠点園の取り組み

2023 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動報告

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

< 調査・研究 >

- ・日本の植物園の希少種コレクションとその情報管理の問題の検証
- ・北海道指定希少野生植物エンピセンノウの自生地植え戻し試験
- ・北海道指定希少野生動植物種タカネエゾムギの生息域外保全
- ・北海道指定希少野生動植物種ヒメホテイランの自生地調査
- ・種の保存法指定種シリベシナズナの遺伝的多様性に配慮した保全に関する研究
- ・礼文島の希少植物の保全研究

< 教育・普及啓発 >

- ・企画展「牧野富太郎と北海道の植物」
- ・小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」
- ・小学生とその保護者向け公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」
- ・付属温室における北海道絶滅危惧植物の生株とパネルの展示

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・キリギシソウ生息域内・域外保全での「岨山自然保護協会」との協力



礼文島の希少植物保全研究
(北大植物園)



個体管理二次元コードを付した植え戻し試験 (北大植物園)

旭川市北邦野草園

< 調査・研究 >

- ・北海道上川管内に自生する植物の調査研究
- ・北海道・蛇紋岩地帯に於ける植物の調査研究
- ・環境省モニタリングサイト 1000 里地調査 (継続)
- ・北海道レッドリスト改訂に関わる調査、検討
- ・植物標本の作成・整理
- ・研究機関 (酪農学園大学、京都大学) との共同調査

< 教育・普及啓発 >

- ・自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会を 8 回開催
- ・自然教室 (小学校、高校) を実施
- ・調査研究報告書 No.12 の発行 (3 月末)



研究機関との共同調査 (北邦野草園)

東北大学植物園

< 調査・研究 >

- ・環境省が実施するチョウセンキバナアツモリソウ保護増殖事業計画への協力（株の栽培、審議会参加）

< 教育・普及啓発 >

- ・第40回全国都市緑化仙台フェア（未来の杜せんだい2023）の連携会場となり、フェア関連イベントとして、以下を実施し、その中で啓発活動を実施

公開講演会：天然記念物「青葉山」の自然と歴史（4月30日）

ウォーキングツアー：天然記念物「青葉山」の新緑を楽しむ（5月4日）

- ・植物園共催で日本植物分類学会23回大会公開シンポジウム「発見者が語る植物の新種とその面白さ」を開催した（3月9日）

国立科学博物館筑波実験植物園

< 調査・研究 >

- ・スナヅル、サジオモダカ属、クモキリソウ属、ヨウラクラン属、コケイラン属など種の実体の把握と分類学的な再検討、遺伝的構造の解析

- ・タカツルラン、カンアオイ属など絶滅危惧植物の生活史と繁殖特性解明

- ・キク科、ベンケイソウ科、アブラナ科など高山植物の二次代謝産物の特性解明

- ・ラン科、シダ植物など保全を目的とした無菌播種、菌共生播種、孢子培養、自生地播種の技術確立

- ・野生絶滅種コシガヤホシクサの交配様式が適応度に及ぼす影響の解明

- ・ラン科絶滅危惧植物を中心とする菌根共生系の解明

- ・クマヤブソテツ、ムニンミドリシダ、ナガバエビモなど生息域外での生活史循環の確立

< 教育・普及啓発 >

- ・サクラソウ品種展、シダ展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開などを実施

- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催

- ・「日本の高山植物の多様性を知り、守り、伝える」、「つくばと東京の水辺から 人と水草の共生を考える」などの講座を開催

- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催

- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・コシガヤホシクサの保全に関するNPO法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体との合同検討会議を開催

- ・ランネットワーク、ラン懇話会、IUCNなどの活動への支援



筑波実験植物園

環境省新宿御苑

< 教育・普及啓発 >

- ・日本絶滅危惧種展（2023/5/31～6/11）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

- ・土浦植物友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

神代植物公園

< 調査・研究 >

- ・野生のラン科植物の無菌播種及びその他都内の自生種の繁殖、栽培
- ・絶滅危惧植物を含む野生種の都内自生地現地調査（新島・御蔵島・八丈島）

< 教育・普及啓発 >

- ・近隣小学校等と連携しての授業
- ・野生ランシンポジウムの開催（7月）
- ・講座開催（年7回開催）
- ・情報館内エントランス展示（テンナンショウ属・ミツバチ・擬態等）並びに色覚コーナー及びチルドレンミュージアムコーナーの新設
- ・都立公園等出張展示

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・都内本土部、島しょ部の活動家との情報連絡会の開催（1月）
- ・各種野生種現地調査での協力、連携



上：無菌培養の様子、下：情報連絡会
（神代植物公園植物多様性センター）

北里大学薬学部附属薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシの遺伝資源としての保全と栽培（ムラサキについては本学受託研究課題）

< 教育・普及啓発 >

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示
- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・関東拠点園の取組みへの参加



左：ムラサキ筒栽培、右：収穫した紫根（北里大学薬用植物園）

名古屋市東山植物園

< 調査・研究 >

- ・ミカワバイケイソウ等の生息域外保全
- ・ヤマシャクヤク、エビネの生息域外保全
- ・フキヤミツバ、エキサイゼリの生息域外保全
- ・トネテンツキ、ミカワイヌノヒゲの生息域外保全
- ・ノジトラノオの生息域外保全
- ・ケブカツルカコソウ生息域外保全

< 教育・普及啓発 >

- ・第4回中部植物多様性保全拠点園会議の開催（10月、会場：富山県中央植物園）
- ・機関誌「ひがしやま」で当園保有の絶滅危惧種の紹介（年4回）
- ・環境教育プログラム「絶滅危惧種 東海地方を中心とした私たちの身近に起こっていること」（2件94名受講）



富山県中央植物園で開催した拠点園会議

- ・子ども向けイベント「パラグアイオニバスに乗ろう」を開催（8月）
- ・ブランド戦略パートナーとの絶滅危惧種ポスター制作

安城産業文化公園デンパーク

< 調査・研究 >

- ・ヒイラギナンテン属の特性記録
- ・ギボウシの園内見本園の育成状況調査

< 教育・普及啓発 >

- ・体験学習「草木と遊ぼう」というプログラム内でサルビア属についてクイズ大会及び園内に植栽されているサルビアのスタンプラリー
- ・植物ガイドツアーでサルビア、ギボウシ見本園などの解説



左:ヒイラギナンテン、右:ギボウシ（デンパークのバックヤード）

新潟県立植物園

< 調査・研究 >

- ・オキナグサの地域協働参画による保全モデルの構築
- ・ラムサール条約湿地・佐潟の植生調査、湿生植物群落復元の研究

< 教育・普及啓発 >

- ・絶滅危惧種を含むツツジ属植物コレクション展示(植物園での展示)
- ・地元小学校(新潟大学附属小学校)への海岸林の保全とその重要性について講義
- ・魚沼生物多様性セミナーへの参加、オキナグサの保全の今後について発表
- ・新潟市東区じゅんさい池公園の植物と保全について講義

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・ラムサール条約湿地・佐潟におけるハス復活プロジェクトへの指導・協力
- ・新潟市佐潟環境保全連絡協議会への参加
- ・魚沼市におけるオキナグサ保全活動への協力
- ・魚沼市における環境保全推進者会議への参加
- ・上越市滝谷地区自治体へのオオニガナ保全指導



上:じゅんさい池の保全活動、下:佐潟の湿地環境に関する保全指導（新潟県立植物園）

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・キブネダイオウ種子の長期貯蔵に関する発芽試験開始

< 教育・普及啓発 >

- ・京都市と共催で京都市産希少植物を用いて庭作りを行う市民参加型イベントの実施（2023/6/3、2023/7/15、2023/8/5、2024/3/18）
- ・京都市教育委員会と連携し、神朮（おけら）奉納に関する博物館講座の実施(2023/12/10)
- ・国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストで「危機（EN）」と評価されているショクダイオオコンニャクの連続開花によるさく葉標本を「大阪市立自然史博物館」にて展示を開催（2024/1/5～3/3）
- ・京都府立桂高等学校と連携して普及啓発を目的に、京の「伝統野菜」のお話と「鷹峯とうがらし」の収穫体験を開催（2023/9/9）
- ・京都府立桂高等学校京野菜チームの「堀川ごぼう」の掘上体験を開催（2023/12/21）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・京都大学上賀茂試験地と事業連携を目的とした協定を締結し、今年度は国際種子交換事業を共同実施
- ・NEXCO 西日本と希少植物の引渡しに係る覚書を締結し、生息域外保全を開始
- ・京都大学芦生研究林に自生する植物の生息域外保全の開始
- ・葵祭に使われるフタバアオイ・カツラを上賀茂神社に奉納
- ・京都市農林企画課、京都府立桂高等学校ならびに京野菜栽培農家との協働で京の伝統野菜・新京都野菜数種についての系統保存を開始

< その他 >

- ・樹木園が自然共生サイトに認定（2023/10/6）
- ・博物館法第2条に定められた「登録博物館」の登録が完了（2024/1/31）



左：キブネダイオウ採種地、右：鷹峯とうがらし収穫体験（武田・京都薬用植物園）

大阪府立花の文化園

< 調査・研究 >

- ・前年度以前に調査を行った自生地・植物を対象に継続調査の実施（テンナンショウ類、ラン類、菌従属栄養植物等）

< 教育・普及啓発 >

- ・園内口ビーに保全事業を紹介する掲示
- ・植物多様性保全についての講演会開催し、講演の中で自生地調査など、植物園がどんな仕事をしているかを紹介した（2024/2/14、2/22）



植物観察会（大阪府立花の文化園）

大阪公立大学附属植物園

< 調査・研究 >

- ・環境省 RDB および近畿 RDB 絶滅危惧種を中心とした絶滅危惧種の調査
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動
- ・ヒメイノモトソウの胞子培養
- ・イヌヤチスギランの栽培
- ・カワゴケソウ科の栽培
- ・和泉葛城山のブナ林（天然記念物）保護増殖事業の種子育苗

< 教育・普及啓発 >

- ・交野市との包括連携協定にもとづく事業の実施
- ・各種観察会の実施
- ・博物館実習の開講
- ・シンポジウム「植物園における植物多様性保全」の実施
- ・東アジア国際植物分類学シンポジウムの実施

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・近畿植物同好会と協働で調査を実施



絶滅危惧種調査 左:ヤクシマカラスザンショウ、中:ヒカゲアマクサシダ、右:ミギワトダシバ (大阪公大植物園)

神戸市立森林植物園

< 調査・研究 >

- ・『あじさい情報センター』としてアジサイを収集・保存・展示
- ・六甲山系のヤマアジサイの地域個体の分布および形質的な多様性を把握するとともに、希少な変異個体の収集・保存を目的に、2018年から自生地調査を実施

< 教育・普及啓発 >

- ・こうべ六甲山私有林研究会と連携し、現地見学会(年1回)等情報発信を実施

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・調査の実施に際して、有識者(兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科) 公設植物園(神戸市立森林植物園) 森林所有者と協力して実施



ヤマアジサイ (神戸市立森林植物園)

六甲高山植物園

< 教育・普及啓発 >

- ・六甲高山植物園 90周年特別企画牧野富太郎特別展示「牧野の足あと～神戸で見つける博士と植物～」を3/18～8/15まで開催

< その他 >

- ・兵庫県立大学からの依頼で、高地性の兵庫県の絶滅危惧種を預かり、生息域外保全を実施。種子で導入したキセワタは開花株になったので、順次園内に植栽



90周年特別企画 牧野富太郎特別展での講演会と展示 (六甲高山植物園)

姫路市立手柄山温室植物園

< 調査・研究 >

- ・丘陵地の谷部湿地やため池環境の調査を重点的に実施し、とくにサギソウの生育状況を調査
- ・姫路市にある家島諸島の男鹿島の湿地を継続調査
- ・瀬戸内海国立公園内にある無人島調査も実施し、大学関係者とともに水生カヤツリグサ科植物の調査採取後、解析中

< 教育・普及啓発 >

- ・身近な絶滅危惧種の企画展示実施し、同時に会場にてミニ講習会を開催
- ・学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の会員が県下各地で植物調査を行っており、確認した絶滅危惧種の種子などの受け入れた



上:サギソウ、下:イヌクログワイ (手柄山温室植物園)

広島市植物公園

< 調査・研究 >

- ・植物園協会の環境省連携事業の一環として、ミコシギク・ウスバアザミの生育状況調査
- ・トウゴクサバノオ、オヌカトウヒレン、猫山の蛇紋岩植物など広島県内の絶滅危惧植物の生育状況調査

< 教育・普及啓発 >

- ・ランに関する年7回の展示会と9回の講習会・実演会を開催:(エビネ展4月22日~4月25日、春の洋ラン展4月29日~5月7日、セッコク・長生蘭展5月9日~5月14日、ウチョウラン展6月13日~6月22日、秋の洋ラン展10月28日~11月5日、寒蘭展11月11日~11月19日、春の特別ラン展2月17日~2月25日)

- ・生物多様性がテーマの園内散策「~広島の絶滅危惧植物~」を実施
- ・野生生物の観察会(園内生きもの探訪)をのべ8回実施

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・ミコシギクについて、地元団体(福富小・中学校、東広島市自然研究会)・広島大学と共同で調査・保全活動をおこなった
- ・広島県内4か所のヤチシャジンの既知の自生地のうち、1カ所を地元団体(世羅町・世羅の自然を守る会)と共同で保全活動を実施
- ・広島県内の植物標本庫(広島大学・広島県緑化センター)と標本の収蔵状況やデータベース化の進捗状況などについて情報を交換し、収蔵状況の視察を実施



左:ウスバアザミ調査の様子、右:洋ラン栽培講習会(広島市植物公園)

西海国立公園九十九島動植物園

< 調査・研究 >

- ・県内でのナガエミクリが危機的状況にあり、採取して生息域外保全をおこなった

< 教育・普及啓発 >

- ・展示改良を行うため、普通種を含め種子収集を実施した

熊本大学薬学部薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・日本植物園協会と環境省の間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく取り組みとして、絶滅危惧植物の採取を実施した



生息域外保全をおこなっている様子（熊本大学薬用植物園）

沖縄美ら島財団

< 調査・研究 >

【自主事業】

- ・西表島植物誌編纂事業（現地調査・標本調査・標本データベース構築）
- ・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究
- ・沖縄県内に生育するキバナシユスラン、コウシュンシユスラン、ナンバンカモメランの生息域外保全（環境省生物多様性推進支援事業）
- ・植物標本庫の充実化・活用・交換
- ・希少植物栽培試験・系統保存

【環境省事業】

- ・維管束植物3種（サガリラン・ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ）の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集（協力）

【沖縄県事業】

- ・ナゴラン保護増殖委託業務実務担当（受託）

< 教育・普及啓発 >

【展示会】

- ・草木は友だち～牧野富太郎展 / 海洋博公園
- ・熱帯の不思議な種子展 / 海洋博公園
- ・沖縄国際洋蘭博覧会特別展示～沖縄に生きる野生ラン～ / 海洋博公園
- ・ツバキ展 / 海洋博公園
- ・世界らん展～自然の楽園 南西諸島に咲く蘭（協力） / 東京ドーム
- ・夏休み自由研究展 / 沖縄県立博物館・美術館

【講演会・講習会等】

- ・「沖縄諸島の希少植物の保全」 / 琉球大学・名城大学
- ・「在来植物を利用した新品種開発プロジェクト」 / 琉球大学・名城大学

特別展示・沖縄に生きる野生ラン（沖縄美ら島財団）



- ・「慶良間諸島の植物」 / 環境省慶良間自然環境事務所主催 植物調査体験会
- ・「大人の植物学講座」 / 沖縄県立博物館・美術館
- ・「ガイド養成講座」 / 西表財団
- ・「植物観察会（草木は友だち～牧野富太郎展関連）」 / 海洋博公園
- ・「植物講演会（草木は友だち～牧野富太郎展関連）」 / 海洋博公園
- ・「ネクマチチ岳 植物調査体験会」 / やんばる自然体験活動協議会
- ・「嘉陽海岸 植物調査体験会」 / 美ら島自然学校

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・「海洋博公園で花と緑に親しもう 植物園ボランティア」 / 海洋博公園

<その他>

【環境省事業】

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産地域科学委員会 委員（協力）
- ・国内希少野生動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）

【沖縄県事業】

- ・沖縄県自然環境審議会 委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業検討委員会 委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会（維管束植物）委員・分科会員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業検討委員会 委員・植物対策作業部会 委員（協力）



左：西表島での種子収集活動、
右：植物調査体験会「美ら島自然学校」、下：「草木は友だち～牧野富太郎展」展示風景
(沖縄美ら島財団)

全国の植物多様性保全拠点園の取り組み

2024年度 植物多様性保全拠点園事業・活動計画

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

< 調査・研究 >

- ・日本の植物園の希少種コレクションとその情報管理の問題の検証
- ・北海道指定希少野生植物エンピセンノウの自生地植え戻し試験
- ・北海道指定希少野生動植物種ヒメホテイランの自生地調査
- ・種の保存法指定種シリベシナズナの遺伝的多様性に配慮した保全に関する研究
- ・礼文島の高山植生の保全研究

< 教育・普及啓発 >

- ・小学生対象の公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」
- ・小学生向け公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」
- ・附属温室における北海道絶滅危惧植物の生株とパネルの展示

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・キリギシソウの生息域内・域外保全における「岨山自然保護協会」との協力

旭川市北邦野草園

< 調査・研究 >

- ・北海道上川管内に自生する植物の調査研究
- ・北海道・蛇紋岩地帯に於ける植物の調査研究
- ・環境省モニタリングサイト 1000 里地調査の継続
- ・北海道レッドリスト改訂に関わる調査、検討
- ・植物標本の作成・整理
- ・研究機関との共同調査

< 教育・普及啓発 >

- ・自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会の開催
- ・自然教室（小、中、高校）
- ・調査研究報告書 No.13 の発行（3月末）

国立科学博物館筑波実験植物園

< 調査・研究 >

- ・絶滅危惧植物の種の実体の把握と分類学的な再検討、遺伝的構造の解析
- ・絶滅危惧植物の生活史と繁殖特性把握
- ・保全を目的とした無菌播種と自生地播種の方法、作業手順の改良
- ・野生絶滅種コシガヤホシクサの繁殖生態の解明
- ・絶滅危惧種を含む高山植物の化学成分の調査
- ・ハエ類によるラン科絶滅危惧種の果実食害の実態解明
- ・環境省生物多様性保全推進支援事業の実施

< 教育・普及啓発 >

- ・サクラソウ品種展、シダ展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開などを実施
- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催
- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催

- ・ラン科植物拠点園で集会、種苗交換を実施
- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・コシガヤホシクサの保全に関する NPO 法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体との合同検討会議を開催
- ・ランネットワーク、ラン懇話会、IUCN などの活動への支援

環境省新宿御苑

< 教育・普及啓発 >

- ・日本絶滅危惧種展（6月）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・土浦植物友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

神代植物公園

< 調査・研究 >

- ・野生のラン科植物の無菌播種及びその他都内の自生種の繁殖、栽培
- ・絶滅危惧植物を含む野生種の都内自生地現地調査（20種程度）

< 教育・普及啓発 >

- ・野生ランシンポジウムの開催（7月頃、ラン懇話会との共催）
- ・近隣小学校等と連携しての授業（連続講座、4回/年）
- ・講座開催 10 回程度
- ・情報館内エントランス展示

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・都内本土部、島しょ部の活動家との情報連絡会（1月開催）
- ・各種野生種現地調査での協力、連携

北里大学薬学部附属薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシのほか、ショウドシマレンギョウなど遺伝資源としての保全と栽培（ムラサキについては受託研究対象）
- ・筑波大学生命環境系山岳科学センター菅平高原実験所、京都大学生存圏研究所と長野県産自生ムラサキの系統保存（生育域外保全）と遺伝子型解析

< 教育・普及啓発 >

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示
- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・東日本拠点園の取組みへの参加

名古屋市東山植物園

< 調査・研究 >

- ・ミカワバイケイソウ等の生息域外保全（継続）
- ・ヤマシャクヤク、エビネの生息域外保全（継続）
- ・フキヤミツバ、エキサイゼリの生息域外保全（継続）
- ・トネテンツキ、ミカワイヌノヒゲの生息域外保全（継続）
- ・ノジトラノオの生息域外保全（継続）

- ・ケブカツルカコソウ生息域外保全（継続）
- <教育・普及啓発>
- ・第5回中部植物多様性保全拠点園会議（開催場所：新潟県立植物園予定）
- ・機関誌「ひがしやま」で当園保有の絶滅危惧種の紹介
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・NTT西日本との連携でフタバアオイを園内で増殖（継続）

安城産業文化公園デンパーク

- <調査・研究>
- ・ガマズミ属の特性記録
- ・サウビア、ギボウシの園内見本園の育成状況調査
- <教育・普及啓発>
- ・子供向け学習プログラム「草木と遊ぼう」においてガマズミ属の観察会
- ・植物ガイドツアーでガマズミ属、サルビア属、ギボウシ属コレクションの解説

白馬五竜高山植物園

- <調査・研究>
- ・長野県版レッドリスト（植物編）2014年版で絶滅危惧IA類に指定されているアズミノヘラオモダカの現状確認と白馬五竜高山植物園での域外保全
- <教育・普及啓発>
- ・園内にて、植物体の展示と普及啓発展示を予定
- ・今後、長野県内の各産地の株を収集し、系統保存を目指す
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・調査活動については、地元有識者と施設責任者の協力のもと、下記の体制で実施する
 - * 地元有識者：植物愛好家（旧穂高町産株の所有者）
 - * 国営あずみの公園（敷地内調査のため）
 - * 水田所有者（水路調査のため）

新潟県立植物園

- <調査・研究>
- ・オキナグサの地域協働参による保全モデルの構築
- ・ラムサール条約湿地・佐潟の植生調査、湿生植物群落復元に向けての研究
- <教育・普及啓発>
- ・絶滅危惧種を含むツツジ属植物のコレクション展示（植物園での展示）
- ・魚沼生物多様性セミナーへの参加
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・ラムサール条約湿地・佐潟におけるハス復活プロジェクトへの指導・協力
- ・新潟市佐潟環境保全連絡協議会への参加
- ・魚沼市におけるオキナグサ保全活動への協力
- ・魚沼市における環境保全推進者会議への参加
- ・上越市滝谷地区自治体へのオオニガナ保全指導

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

- <調査・研究>
- ・ベニバナヤマシャクヤク絶滅危惧類（VU）とババハパチとの関係性を調査
- ・純系キブネダイオウとエゾノギシギシとの交雑個体の間で形態の違いを調査

< 教育・普及啓発 >

- ・京都市と共催で京都市産希少植物を用いて庭作りを行う市民参加型イベントの実施(未定)
- ・きょうと生物多様性センターと地域保全団体と共催で、雲ヶ畑をテーマに生物多様性に関するイベントを実施(2024/4/20)

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・BGCI への正会員申請
- ・京都市農林企画課、京都府立桂高等学校ならびに京野菜栽培農家との協働で京の伝統野菜・新京都野菜数種についての系統保存を継続

< その他 >

- ・きょうと生物多様性センターと連携し、京都産の地域性希少植物と薬用植物の種子保存事業の開始

大阪府立花の文化園

< 調査・研究 >

- ・前年度まで行っていた調査対象植物の自生地調査を、引き続き実施予定

< 教育・普及啓発 >

- ・園内で自生地調査や多様性保全啓発の展示を継続実施
- ・保全についての講演を2回(2月と3月)開催予定

大阪公立大学附属植物園

< 調査・研究 >

- ・環境省 RDB および近畿 RDB 絶滅危惧種を中心とした絶滅危惧種の調査
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動
- ・ヒメイノモトソウの孢子培養
- ・イヌヤチスギランの栽培
- ・カワゴケソウ科の栽培
- ・キレハオオクボシダの栽培
- ・和泉葛城山のブナ林(天然記念物)保護増殖事業の種子育苗

< 教育・普及啓発 >

- ・交野市との包括連携協定にもとづく事業の実施
- ・各種観察会の実施
- ・博物館実習の開講
- ・シンポジウム「植物園における植物多様性保全」の実施
- ・東アジア国際植物分類学シンポジウムの実施

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・近畿植物同好会と協働で調査を実施

大阪市長居植物園

< 教育・普及啓発 >

- ・普及啓発の展示会を予定

六甲高山植物園

< 教育・普及啓発 >

- ・3月16日~8月18日牧野富太郎特別展示「牧野の足あと~博士と関西の仲間たち~」

< その他 >

- ・兵庫県立大学と連携して兵庫県の高地生の絶滅危惧種を栽培予定

神戸市立森林植物園

< 調査・研究 >

- ・『あじさい情報センター』としてアジサイを収集・保存・展示
- ・六甲山系のヤマアジサイの地域個体の分布および形質的な多様性を把握するとともに、希少な変異個体の収集・保存を目的に、2018年から自生地調査を実施

< 教育・普及啓発 >

- ・こうべ六甲山私有林研究会と連携し、現地見学会（年1回）等情報発信・普及啓発を予定
- ・ヤマアジサイ地域個体自生分布の把握および採取挿し穂の栄養繁殖個体を育成、保存を計画

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・調査の実施に際して、有識者（兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科、特定非営利活動法人六甲山の自然を学ぼう会）、公設植物園（神戸市立森林植物園）、森林所有者と協力して実施する予定

姫路市立手柄山温室植物園

< 調査・研究 >

- ・鳥しょ部の湿地含むため池、湿地環境の調査を重点的に実施予定

< 教育・普及啓発 >

- ・身近な絶滅危惧種の企画展示実施予定、同時に会場にてミニ講習会の実施
- ・学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・2023年度同様、兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の会員が県下各地で植物調査を行っており、確認した絶滅危惧種の種子などを受け入れる予定

< その他 >

- ・兵庫県立人と自然の博物館ジーンバンクとの協働で系統保全について検討を継続

広島市植物公園

< 調査・研究 >

- ・広島市版レッドデータブック改定に向けての調査・協力
- ・トウゴクサバノオ、蛇紋岩植物の生育状況調査
- ・ミコシギクの生育状況・発芽特性調査
- ・令和5年度環境省連携事業（植物園協会）対象種のフォローアップ調査

< 教育・普及啓発 >

- ・ラン科植物の展示会：7回（講習会年9回）（継続事業）
- ・広島の絶滅危惧植物（生物多様性がテーマの園内観察会）：1回（継続事業）
- ・園内生きもの探訪（園内外の動植物の営みや生態系の解説）：8回（継続事業）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・ミコシギクの保全（継続事業）
- ・ヤチシャジンの保全活動への協力（継続事業）
- ・広島県内の標本庫相互の情報交換網の整備（継続事業）

西海国立公園九十九島動植物園

< 教育・普及啓発 >

- ・整形花壇を、在来種向けの生態展示に改良する

熊本大学薬学部薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・熊本県内に生育するホザキカシグサを全生育地ごとに系統保存する予定
- ・植物地理学上重要な生育地となっているものについて、保全計画を立てる

沖縄美ら島財団

< 調査・研究 >

【自主事業】

- ・西表島植物誌編纂事業（現地調査・標本調査・編集作業）
- ・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究
- ・植物標本庫の充実化・活用・交換
- ・希少植物栽培試験・系統保存

【環境省事業】

- ・維管束植物3種（サガリラン・ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ）の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集（協力）

【沖縄県事業】

- ・ナゴラン保護増殖委託業務実務担当（受託）

< 教育・普及啓発 >

【展示会】

- ・種子展 / 海洋博公園
- ・希少植物保全展示 / 海洋博公園
- ・ツバキ展 / 海洋博公園

【講演会・講習会等】

- ・「沖縄諸島の希少植物の保全」 / 琉球大学・名城大学
- ・「在来植物を利用した新品種開発プロジェクト」 / 琉球大学・名城大学
- ・「大人の植物学講座」 / 沖縄県立博物館・美術館
- ・「植物観察会」 / 海洋博公園

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・「海洋博公園で花と緑に親しもう 植物園ボランティア」 / 海洋博公園

< その他 >

【環境省事業】

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産地域科学委員会 委員（協力）
- ・国内希少野生動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）

【沖縄県事業】

- ・沖縄県自然環境審議会委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業検討委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会（維管束植物）委員・分科会員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業検討委員会 委員・植物対策作業部会 委員（協力）

植物多様性保全事業年次報告 2024

発行年月日 2024年5月23日
編集・発行 公益社団法人日本植物園協会
植物多様性保全委員会
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201
TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453